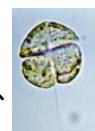


アサリによる有害赤潮抑制効果の検証

【研究のポイント】 大分県沿岸部では、「赤潮」が頻発しています。赤潮が発生すると、漁業被害を引き起こす可能性があり、生産現場から赤潮抑制対策が強く求められています。そこで着目したのが、近年国産需要が高まっているアサリです。アサリは植物プランクトンを捕食することから、赤潮の発生を抑制できる可能性があります。今回、実際に現場で発生した赤潮海水にアサリを収容し、赤潮抑制の効果があるかを検証しました。

◎試験内容

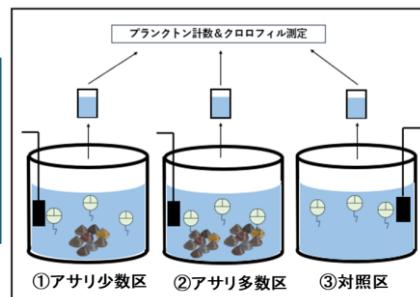
2024年夏に豊後水道沿岸域で発生した有害プランクトン「カレニア・ミキモトイ」の赤潮海水を用いて試験を実施し、プランクトンの細胞密度の変化を観察



魚に有害なプランクトン
「カレニア・ミキモトイ」

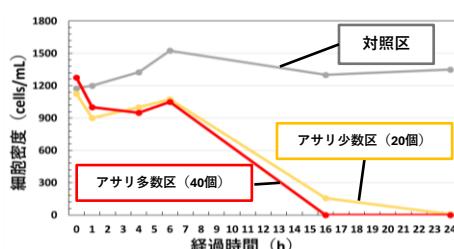
供試貝：殻長20～30mmの人工種苗アサリ
試験区：①アサリ少數区
②アサリ多數区
③アサリ無し（対象区）

収容時間：24～48時間

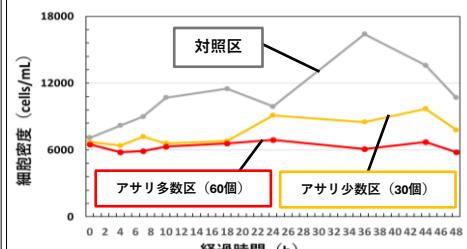


◎試験結果

赤潮低密度水槽（1,200細胞/mL）の
プランクトン密度の推移



赤潮高密度水槽（7,000細胞/mL）の
プランクトン密度の推移



【研究の成果】

【対照区】

やや増加した後、横ばいに推移
【アサリ少數区・アサリ多數区】
試験開始6時間まではやや減少＆横ばいに推移した後、大きく減少

【対照区】

試験終了まで増加傾向
【アサリ少數区・アサリ多數区】
対照区より少ない細胞密度で横ばいに推移し、増殖抑制効果がみられた

【まとめ】

カレニア赤潮の低密度試験では、細胞を大きく減少させることができた。
また、高密度試験では、細胞増加を抑制することができた。



赤潮が頻発する海域で、アサリ養殖を行うことにより、漁業被害軽減が期待されます。また、その海域でアサリ養殖が活性化することで、地域が活性化し、本県の水産業の発展につながることを期待します。
大分県漁協 蒲江・名護屋支店 支店長（甲斐 昌彦氏）

【生産者の声】

担当：水産研究部養殖環境チーム

TEL：0972-32-2155（問い合わせは企画指導担当へ）

住所：大分県佐伯市上浦大字津井浦194番地6

【連絡先】